

CLF

同志社大学

学習支援・教育開発センターレポート

REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

2016.10

vol. 25

01 P2

就任挨拶

所長挨拶
新任教員挨拶

02 P3

2016年度の設置部会

FD支援部会
大学院教育検討部会
学習支援検討部会

03 P4-P5

ラーニング・コモンズ運営状況

コモンズカフェ
協同学習体験ワークショップ
LA紹介とLA研修
学習相談

CONTENTS

04 P6-P7

2015年度
「キャンパスライフに関する
アンケート調査」について

学業成績と大学生活の関係

05 P8-P12

各学部・研究科・センターFD活動報告
各学部・研究科・センターFD活動費について
開催報告
学外FD企画参加記
FD関連企画のご案内
BOOKS 新着図書情報
2016年度「大学入学準備講座」のご案内
Column 大学教育の今



所長挨拶

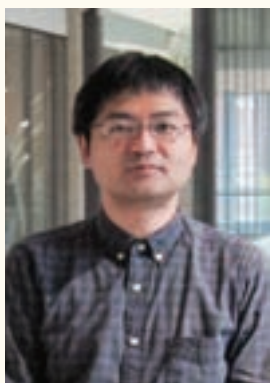
学習支援・教育開発センター所長
FD支援部会長
大学院教育検討部会長
学習支援検討部会長

大島 佳代子

2016年4月より学習支援・教育開発センター所長に就任致しました。これまで教務関係の業務に携わったことがなく、この半年間は所管する仕事の理解に努めてまいりましたが、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じます。幸い少数ながらも精鋭のスタッフに恵まれ、所長の力不足をチームワークで補っております。

本センターはFD支援、ラーニング・コモンズの運営などの恒常的業務のほかにも、『同志社大学ビジョン2025』や昨今の大学教育改革の動向を踏まえた時期に応じた学習支援・教育施策の企画やその実施を担っております。

学内外を問わず、多くの皆さまのご支援・ご協力のもと、大学教育の充実発展のために努力していく所存でございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。



新任教員挨拶

学習支援・教育開発センター
准教授

菅澤 貴之

2016年4月より学習支援・教育開発センターに教学IR担当の准教授として着任いたしました。私は、本学の文学部社会学科(現在の社会学部)を卒業し、大学院は九州大学に進学しました。研究活動としては、最近5年ほどは高校中退者の家庭環境や就業の実態に関する調査研究を行い、この4月からは、これまでの研究を発展させ、大学中退者のキャリア形成に関する調査研究を開始いたしました。研究手法としては、アンケートに代表される定量的調査とインタビューなどの定性的調査の双方をできる限り取り入れ、複眼的な視座から研究対象にアプローチすることを試んでいます。

前任校である奈良先端科学技術大学院大学では、大学院学生(特に博士後期課程学生)を対象としたキャリア教育・キャリア支援、大学で雇用しているポストドクターのキャリアアップに資するセミナーの企画立案、実施といった業務に従事しておりました。奈良先端科学技術大学院大学は理工系だけの研究科で構成されていることもあり、あらゆる部局でデータの蓄積が進んでおり、エビデンスに立脚し学内の施策を議論する文化が根付いていました。私も大学執行部から学生の就職状況やセミナー受講者数の推移などのデータを求められることが頻繁にありました。

学習支援・教育開発センターでは、これまでの研究活動や業務で培った経験を活かし、教学IRを展開していきたいと考えております。最後に、アンケート調査の実施や種々の教学データを収集する過程では教職員の皆様にお力をお借りする機会もあるかと思えます。その際は、ご面倒をおかけいたしますが、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

専門分野：社会調査法 / 教育社会学 / 高等教育論

2016年度の設置部会

F D 支援部会

教育内容・授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置されています。

2016年5月12日、第1回学習支援・教育開発センターF D 支援部会が開催され、今年度本部会が取り組む課題として、①F D 活動の検証と次期計画の検討、②「大学入学準備講座」の企画、③F D に関する意識高揚活動の実施、④その他(検討を必要とする各種課題)が承認されました。

F D 支援部会は、2004年の本センター設立当初からカリキュラムや履修等の全学的・制度的見直しに加え、教員の授業内容・授業方法の改善を図ることを目的として設置されたことに鑑み、これまでも「学生による授業評価アンケート」や「キャンパスライフに関するアンケート調査」等の各種アンケートを実施し、学部・教員等の有効なフィードバックのための材料を提供してきました。

「教育の質」の保証をPDCAサイクルによって実質化していく必要性からも、F D に関する意識高揚活動を継続するだけでなく、これまでのF D 活動の検証と、今後の活動のあり方を検討することが重要です。

なお、④その他(検討を必要とする各種課題)は、現在進行中である『同志社大学ビジョン2025』中期行動計画および「2016年度に重点的に取り組む課題」の実現化の議論を受け、今後新たに本部会で検討が必要とされる課題を指すものです。

部会委員の皆さまだけでなく、全学の皆さまのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

部会長／大島 佳代子

2016年度事業計画

- ① F D 活動の検証と次期計画の検討
- ② 「大学入学準備講座」の企画
- ③ F D に関する意識高揚活動の実施
- ④ その他(検討を必要とする各種課題)

大学院教育検討部会

本学の大学院教育充実のために、教学支援体制ならびに学生支援体制の強化の諸方策を検討することを目的として設置されています。

2016年5月23日、第1回学習支援・教育開発センター大学院教育検討部会が開催され、今年度本部会が取り組む課題として、①大学院共通基礎科目の展開方法の検討、②TA制度(運用の適切性)の再点検、③大学院教育充実のための情報提供と意見交換、④その他(検討を必要とする各種課題)が承認されました。

昨年度からの継続課題である①については、大学院共通基礎科目として試行的に提供された総合政策科学研究科の2科目の実施状況を参考に共通基礎科目設置の可能性を検討するほか、研究倫理に関する全学的な仕組みの検討などを行います。

②については、院生のキャリアアップの視点から、TA制度やTA研修会の再点検を行い、実質化を図っていきたいと思います。

なお、④その他(検討を必要とする各種課題)は、現在進行中である『同志社大学ビジョン2025』中期行動計画および「2016年度に重点的に取り組む課題」の実現化の議論を受け、今後新たに本部会で検討が必要とされる課題を指すものです。

部会委員の皆さまだけでなく、全学の皆さまのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

部会長／大島 佳代子

2016年度事業計画

- ① 大学院共通基礎科目の展開方法の検討
- ② TA制度(運用の適切性)の再点検
- ③ 大学院教育充実のための情報提供と意見交換
- ④ その他(検討を必要とする各種課題)

学習支援検討部会

本学における学習支援活動や学習支援環境(ラーニング・コモンズ等)の運営方法を検討することを目的として設置されています。

2016年5月19日、第1回学習支援・教育開発センター学習支援検討部会が開催され、今年度本部会が取り組む課題として、①京田辺キャンパスにおける学習支援プログラム(案)の策定、②良心館ラーニング・コモンズの利用動向、学習成果の分析、③良心館ラーニング・コモンズ提供プログラムの検証と評価、④その他(広報活動の強化、学部間連携の継続維持等)が承認されました。

課題①については、「ラーネッド記念図書館整備事業実行委員会」の議論を受け、京田辺キャンパスにおける学習支援のあり方を具体的に検討するものです。これまで今出川キャンパスで行ってきた学習支援の知見を活かし、京田辺キャンパスのニーズを反映したプログラムを提供したいと考えております。

また、良心館ラーニング・コモンズは2013年の開設以来、授業外サポートに止まらず、学生・院生ひとりひとりが自立的に勉強するためのサポートを行って参りました。より良い学習支援を行うために、今年度もラーニング・コモンズの利用動向や学習成果の分析を継続すると同時に、提供プログラムの見直しを図りたいと思います。

部会委員の皆さまだけでなく、全学の皆さまのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

部会長／大島 佳代子

2016年度事業計画

- ① 京田辺キャンパスにおける学習支援プログラム(案)の策定
- ② 良心館ラーニング・コモンズの利用動向、学習成果の分析
- ③ 良心館ラーニング・コモンズ提供プログラムの検証と評価
- ④ その他(広報活動の強化、学部間連携の継続維持等)

ラーニング・commons運営状況

commonsカフェ

2016年4月から7月にかけて、第17回と第19回commonsカフェが行われました。

※commonsカフェとは…

同志社大学内外の研究者をお招きし、コーヒーや紅茶を飲みながら気軽にトークを行うイベントです。良心館ラーニング・commons 2Fグローバルビレッジで開催しています。毎回、知的好奇心が震える話が飛び出しますが、これを聞くことができるのは参加者だけの特権です。2013年11月に第1回目を開催し、2016年7月に第19回目を迎えることができました。

※第18回は事情により中止となりましたが、期日を変えて開催予定です。

第17回 イギリス文学に親しむ — 教養に満ちた学生生活を送る方法 —

日時 2016年4月27日(水) 14:55～15:55

ゲスト 圓月 勝博 教授(同志社大学 文学部)

先生がイギリスの英文学、とりわけ詩に関心をもつきっかけとなった「Leap Before You Look」のお話から、詩の面白さ、奥深さについて語っていただきました。また、大学生活においてrejoiceの姿勢を持つことの大切さをお話しいただきました。



第19回 あなたもめざしませんか？サイエンスコミュニケーター

日時 2016年7月5日(火) 14:55～15:55

ゲスト 野口 範子 教授(同志社大学 生命医科学部)

「サイエンスを専門としない人に、サイエンスのことをちゃんと伝える」サイエンスコミュニケーターの重要性とその養成について語っていただきました。社会と科学を繋ぐにあたり、理系・文系の垣根を超えた異分野交流の必要性をお話しいただきました。



第20回 〈開催予定〉京都の伝統産業 — その経営戦略と成長の見通し —

日時 2016年10月26日(水) 14:55～15:55

ゲスト 村山 裕三 教授(同志社大学 ビジネス研究科)

村山先生は、経営戦略のあり方、京都の伝統産業の活性化策、特に文化ビジネスへの転換戦略などを中心に研究をされています。現代的なトピックを扱いつつも、その裏にある長期的な趨勢、底流にある考え方について今回はお話しいたします。

※各回の詳細な開催記録、また今後の予定につきましては、良心館ラーニング・commons専用HPをご覧ください。

良心館ラーニング・commonsHP

http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/commons_cafe/

協同学習体験ワークショップ

ラーニング・commonsでの 学びの共有化を考える

日時 2016年10月5日(水) 19:00～20:30

講師 村上 正行 教授(京都外国語大学
マルチメディア教育研究センター)

会場 良心館ラーニング・commons 3F
ワークショップルーム02



当日は村上先生より、アクティブ・ラーニング型の施設活用、協同学習の学習効果や基本的な考え方、情報教育との関連性をお話しいたし、ワークショップを通じて学生間で知識・技能を共有する機会となりました。

LA 紹介と LA 研修

2013 年度秋学期よりラーニング・アシスタント(LA)を採用し、アカデミック・インストラクターとチームとして学習相談を実施しています。2016 年度は表 1 のとおり、6 つの研究科から博士前期課程と博士後期課程の合計 15 名の大学院生が活躍しております。

2016 年度新規採用 LA 5 名は全 9 回の研修に参加することになっています。2016 年 3 月 24 日(木)と 25 日(金)に 2016 年度 LA 研修(第 1～7 回)を行いました。第 8 回の協同学習体験ワークショップ(10 月 5 日)と、第 9 回のフォローアップ(10 月 12 日)は秋学期に実施されました。

表 1 2016 年度 LA 所属一覧

	博士前期課程	博士後期課程	合計
神学研究科	1	0	1
文学研究科	0	4	4
社会学研究科	0	3	3
法学研究科	2	2	4
商学研究科	1	0	1
総合政策科学研究科	1	1	2
合計	5	10	15

※2016 年度春学期終了時点



※ラーニング・アシスタント(LA)とは…

良心館ラーニング・commonsで学部生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当する大学院生スタッフです。開講・試験期間中の平日11時から19時までの間、様々な分野の大学院生が学習者にアシストしています。

学習相談

3Fアカデミックサポートエリアでは学習相談を実施しています。今回は昨年度(2015年度)の学習相談の内容を月別に集計してみました(表 2)。2015 年 4 月から 2016 年 3 月の相談件数は 1807 件でした。

まず、「レポートの書き方」、「論文の書き方」、「調査、研究の方法」、「レジュメの作り方」に 100 件以上の相談がありました。中でも「レポートの書き方」、「論文の書き方」で 750 件と多くを占めています。「その他」も 371 件ありますが、PC 操作、印刷設定の方法など分類できない内容となっています。

次に、月によって寄せられる相談内容に特徴がみられます。4 月に「レジュメの作り方」、5 月から「レポートの書き方」、10 月と 11 月に「調査、研究の方法」、12 月に「論文の書き方」となっています。どのような質問であれ、アカデミック・インストラクター、LA がチームとなってサポートしています。

表 2 2015 年度 月別相談件数

学習相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
レポートの書き方	33	125	96	116	1	0	14	24	19	22	8	0	458
論文の書き方	16	10	2	8	11	7	16	27	138	23	26	8	292
調査、研究の方法	9	7	12	13	14	10	44	77	59	30	6	4	285
レジュメの作り方	76	5	10	9	0	0	5	3	0	2	0	0	110
プレゼンテーションの方法	6	8	8	15	0	0	2	4	24	8	3	0	78
文献の調べ方	5	11	5	6	0	1	16	8	15	5	0	0	72
進学・就職など卒業後の進路	2	4	1	1	0	1	3	3	5	10	8	0	38
特定の科目の学び方	4	5	9	6	1	0	0	2	0	5	0	0	32
留学について	0	0	1	0	1	1	11	5	0	2	0	0	21
学業上の悩み・不安	3	4	1	2	0	0	1	2	1	1	1	0	16
文献の読み方	1	2	2	1	0	0	2	2	0	1	2	0	13
語学の勉強	0	2	4	1	1	1	0	0	0	1	1	0	11
自分にあった勉強法	4	3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	10
その他	35	72	38	40	17	12	34	44	29	32	13	5	371
合計	194	258	189	218	46	35	149	201	290	142	68	17	1807

総件数(1回の相談で複数の内容も含まれる)

2015年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」について

学習支援・教育開発センターでは、2004年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。この調査は、学生の学習状況や意識を捉えることによって、本学の教育改善につなげることを目的としています。毎年3月下旬の成績交付時に、1年次および3年次の終了時点の学生を対象に調査を行っています。2015年度は、1年次生の調査で5022件(回収率：79.2%)、3年次生の調査で4271件(同67.2%)の回答を得ることができました。

学業成績と大学生生活の関係

「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、調査時点での累積GPA (Grade Point Average) を回答者(学生)に尋ねています(1年次調査：Q5、3年次調査：Q5)。そこで今回の調査報告では、この累積GPAにもとづき回答者(学生)のグループ分けを行い、学業成績によって日ごとの授業への取り組みやライフスタイルがどのように異なっているのかを検討します(分析で使用したデータは2015年度1年次調査データです)。なお、今回の分析では、累積GPAが3.00以上を学業成績高群、2.00以上2.99以下を学業成績中群、1.99以下を学業成績低群と操作的に定義し、集計を行っています。

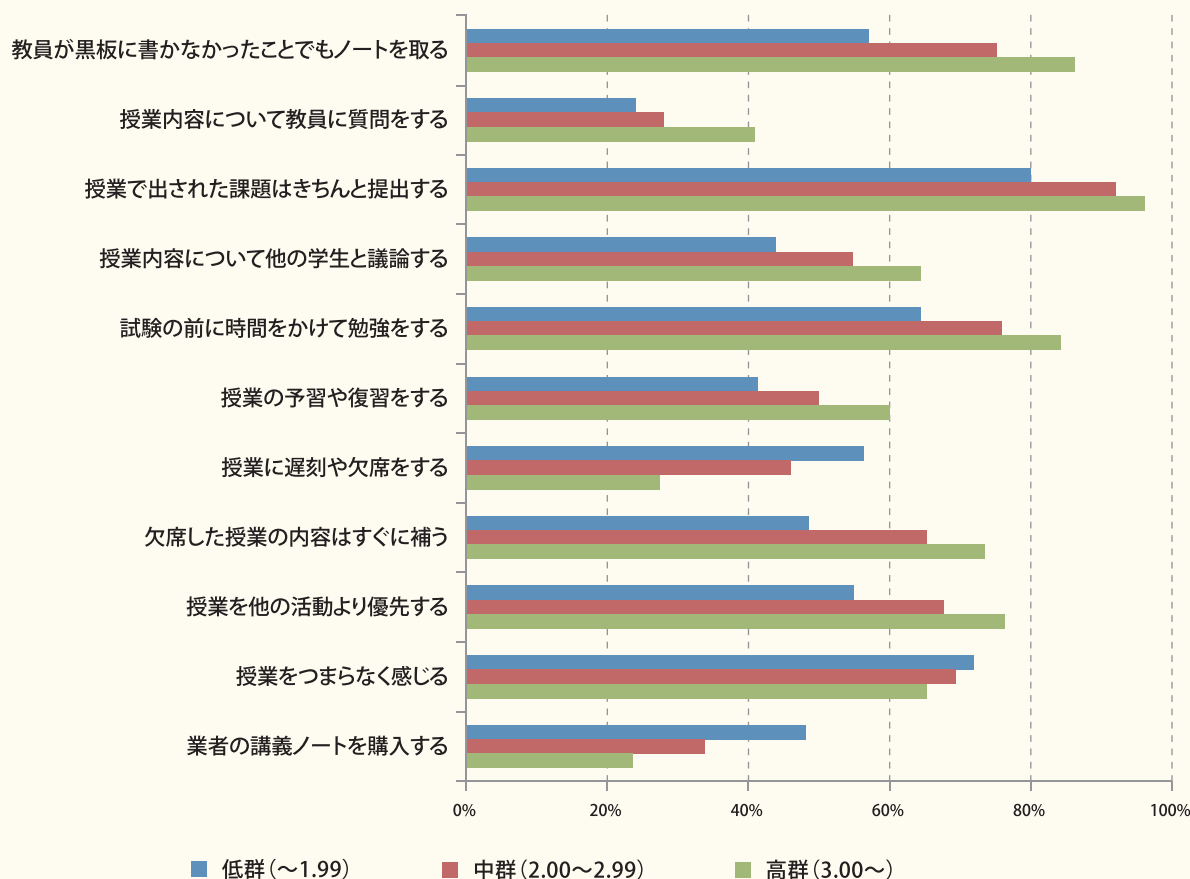


図1：GPA別「授業への取り組み(たまにする+よくする)」の比較(1年次)

*回答の選択肢は「よくする」、「たまにする」、「あまりしない」、「全くしない」の4段階。

はじめに、『授業への取り組み』状況について見ていきましょう。図1は「たまにする」と「よくする」の合計(%)を項目ごとに集計した結果です。図1には、授業に臨む姿勢は学業成績によって明確に異なることが示されています。例えば、「教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る」、「授業内容について他の学生と議論する」、「試験の前に時間をかけて勉強をする」学生の割合は、累積GPAが高まるほど増加し、GPA高群と低群との差は20ポイントを越えています。これらの項目とは対照的に、「授業に遅刻や欠席をする」、「業者の講義ノートを購入する」学生の割合は、累積GPAが高まるほど減少する傾向にあり、GPA高群と低群では30ポイントほどの差が認められます。こうした結果からも、累積GPAが高い学生グループほど、日々の授業に対して積極的・主体的に取り組んでいる様子がうかがえます。

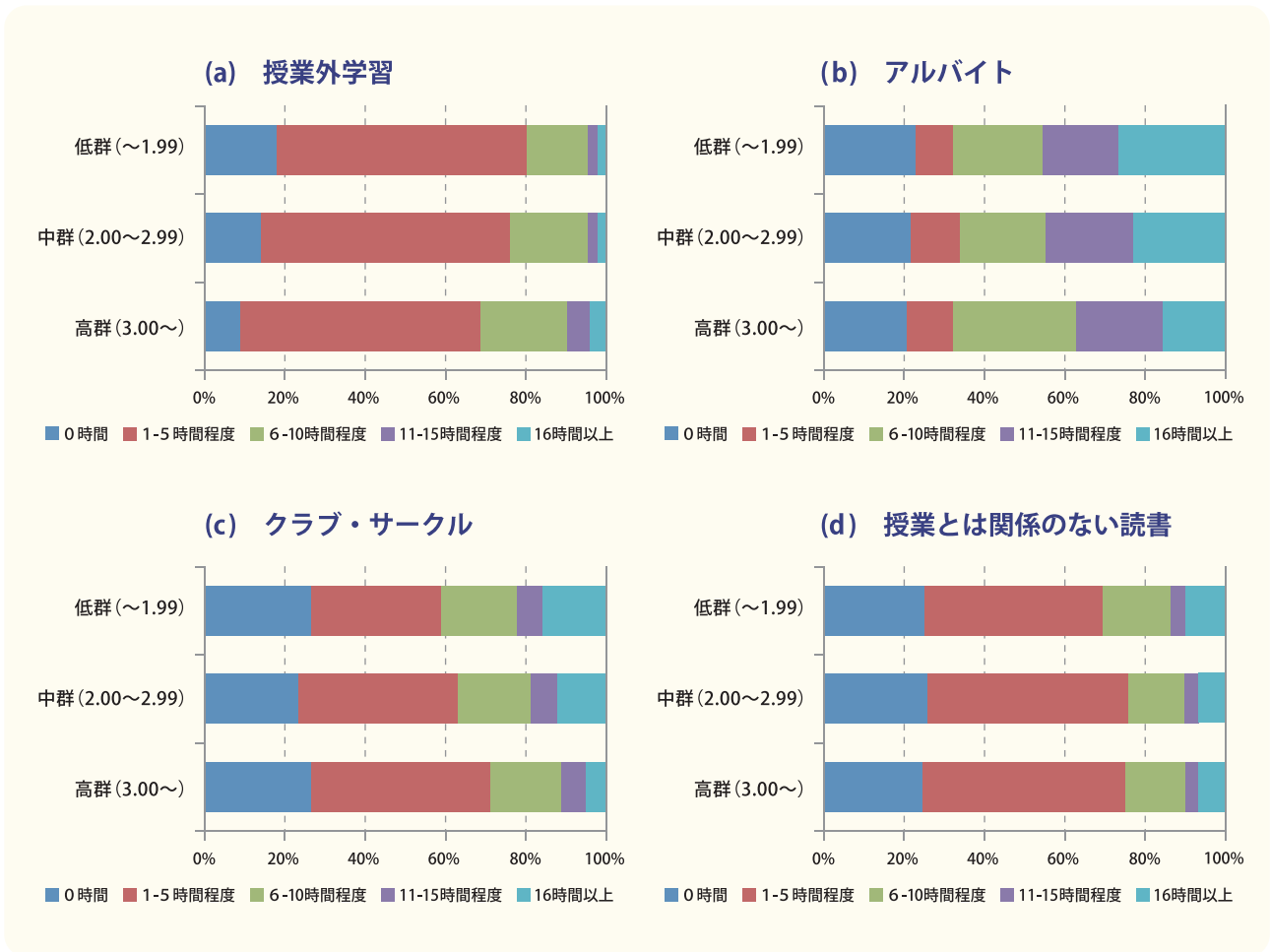


図2：GPA別「1週間あたりの各種活動に費やす時間」の比較（1年次）

それでは、日ごとのライフスタイルには、学業成績によってどのような相違があるのでしょうか。「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、学生のライフスタイルを捉えるために、授業外学習、アルバイト、クラブ・サークル活動、読書といった各種活動に1週間あたりで費やす時間を尋ねています。図2は、各種活動に対する回答を5時間ごとに区分し集計したものです。

まず、授業外学習については、累積GPAが高まるにつれ、「0時間」の割合が減少する一方、6時間以上（「6-10時間程度」+「11-15時間程度」+「16時間以上」）の割合が増加しています。このように、学業成績と授業外学習には正の関係が確認できます。

次に、アルバイトの回答分布を見ると、「0時間」と「1-5時間程度」については累積GPAの高低を問わず、回答の割合に違いが認められません。ただし、累積GPAが低下するほど、11時間以上（「11-15時間程度」+「16時間以上」）の割合が増加する傾向にあり、特に、GPA低群では「16時間以上」の割合が28.3%と最も多くを占めています。アルバイトには対人関係能力の伸長や勤労観の醸成などの効用（メリット）があるとされていますが、長時間にわたるアルバイトは学業成績に負の影響（デメリット）を与えているようです。

続いて、クラブ・サークル活動時間は、アルバイトと同様、「0時間」については累積GPAに関係なく一様に1/4程度を占めています。また、GPA高群では「1-5時間程度」との回答が半数ほど（44.1%）と最も多くの割合を占めていますが、11時間以上の割合は1割未満（9.5%）にとどまっています。一方、GPA中群では11時間以上の割合は17.2%、GPA低群では21.4%を占め、累積GPAが低下するほど増加する傾向にあることが読み取れます。アルバイトと同様、クラブ・サークル活動に費やす時間が長すぎると（没頭しすぎると）、学業成績に負の影響があるようです。最後の、授業とは関係のない読書については、学業成績によって回答の分布状況に大きな相違は確認できませんでした。

以上、「2015年度キャンパスライフに関するアンケート調査」について集計結果の一部を紹介してきました。調査票および集計結果の詳細については、学習支援・教育開発センターのホームページにて公開する予定です。

【集計・分析：菅澤 貴之(学習支援・教育開発センター 准教授)】

各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

心理学部

余語 真夫

心理学部の特徴として少人数の演習授業が多いことがあげられる。しかも、ファーストイヤーセミナーという導入教育を始めとして、心理学実験演習、外国書講読など低学年配当の基幹的な科目が、必修かつ少人数制となっている。そういった科目では、同一科目を多くのクラスに分けて学生を配分することになるが、それは同一科目を併行して多くの教員で担当することを意味している。この時、課題となるのが、クラスの自由度を保ちながら、しかし、クラスによる運営方針や習熟の凸凹をおさえ一定のレベルを確保することである。そのためには教員相互の横のコミュニケーションが必要になるが、心理学部ではこういった科目にとりまとめ役の教員を置くことで、連絡を密にし、問題点を共有しながら全体の調整をはかっている。半期の科目終了後にまとめの話し合いももたれるが、それよりも、学期期間中の情報共有とこまめなやりとりがクラス運営を向上させるためのFD活動となっている。

グローバル・コミュニケーション学部

玉井 史絵

卓越した外国語コミュニケーション能力を有する人材の育成を目指すグローバル・コミュニケーション学部は、2016年度で開設6年目を迎えた。本学部では、一年間の「Study Abroad」や4年次に学びの集大成として学生が主体となってプロジェクトを実践する「Seminar Project」など、様々な新しい試みを実践してきた。

こうした教育実践を支えるため、本学部では活発なFD活動を行っている。年に一度FD講演会を開催し、外部の講師を招いて外国語教育に関連する種々のトピックについてお話しいただく機会を設けている。また、FDワークショップを実施し、教員が授業実践について報告し情報交換することで、教授法や授業内容のさらなる充実を図っている。昨年度は、開設から完成年度までの授業実践を振り返るために、「世界へ通じる対話力育成のために——グローバル・コミュニケーション学部授業実践研究：第1集」と題する小冊子を発刊した。今後とも、学部教育と全学外国語教育の発展のため、上記のFD活動を継続的に行っていく。

日本語・日本文化教育センター

平 弥悠紀

日本語・日本文化教育センターは、同志社大学に在学するすべての外国人留学生に対する日本語・日本文化教育を担っている。特に、大学間、学部間協定による受入留学生、別科生等は、「日本語集中コース」で半年から1年間、月曜日から金曜日まで毎日日本語を集中して学んでおり、短期間で日本語能力を伸ばすべく、担当教員間で連絡を密に取り合っており日々の教育に当たっている。2016年度、「集中コース」は9レベル28クラス体制で授業を行っているが、今年度より、春休み中に行う次年度の担当教員全員による打ち合わせ会議に加えて、毎学期のプレースメントテストに先立ち、コーディネーター会議を実施している。在学生の場合は、前学期の学習状況やその他の注意点、新入生の場合はハンディキャップをもった学生への支援等々、個々の学生の情報を新学期のクラス、レベル配置に生かし、学習をより効果的に進めるためである。学期中は、日々の学習内容のみならず、個々の学生のメンタル面、健康面に関する事まで、毎回の授業後に引継ぎを行っている。随時、クラス、レベルの担当者でミーティングを行い、学生に関する問題や情報を共有することで、留学生一人一人の能力の向上に努めている。

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのFDに関する取組に対し、年間30万円までをFD活動費として配分しています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費(FD支援費)の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に対する謝礼
- FD関連書籍購入費用 等

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする(学外講師の会合費は補助可)。

* 会合費について

- 研修会開催等の会議費用(昼夜を問わない)及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は1人あたり単価1,200円(税別)までとする。また、夕食時における学外講師との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円(税別)までとする。
- 会合費にアルコールは含まない(会合費としての補助は不可)。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

開催報告

今年度の新任教員研修会を4月2日に、TA研修会を4月4日・6日・7日に開催しました。各研修会の動画・資料を以下のページで公開していますので、ぜひご覧ください。

新任教員研修会

「教職員のページ」
(本学教職員のみ閲覧可能)



新任教員研修会の様子

今年度は70名の参加がありました。

TA研修会

<http://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>



TA研修会の様子

3日間の開催で合計461名の参加がありました。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメールリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はP.11でも紹介しています。

北海道大学 高等教育研修センターセミナー

テーマ 英語による
アカデミック・プレゼンテーションの基礎

開催日 2016年6月30日(木)

主催 北海道大学高等教育研修センター

心理学部 竹原卓真 教授

近年、研究者や若者が様々なテーマにおいてプレゼンテーションするのをテレビで頻繁に見かけるようになった。また、プレゼンテーション先進国のアメリカではTED(Technology, Entertainment, Design)というタイトルのプレゼンテーションイベントが人気を博し、自分の考えや研究成果を一般市民の前でわかりやすくしゃべる必要性が重視されてきている。私たち心理学部教員も例外ではなく、国際学会では当然ながら英語で研究成果をプレゼンテーションしなければならず、プレゼンテーションスキルを磨く努力を怠ってはならない。英語での良いプレゼンテーションは研究上多様な側面でポジティブに働くからだ。

6月末の札幌としてはかなり暑い中、北海道大学で開催された「英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎」という企画に参加してきた。当初、この企画は講師によるプレゼンテーションスキルの講演という座学形式であったが、当日会場で急に形式が変更され、参加者自身が実際に英語でプレゼンテーションすることを求められた。少々慌てたものの、講師が身振り手振りの使用方法、抑揚の効果的な付け方、典型的なノンバーバル行動等、プレゼンテーションの基本を簡単にトークしてくれたおかげで、なんとかこなすことができた。正直なところ、本当に一定レベルのプレゼンテーションができたかどうか分からないが、講師の「プレゼンテーションスキルは練習でしか上達しない」という言葉が語るように、プレゼンテーションは一足飛びにスキルアップするという性質のものではない。普段からの地道な継続的努力だけがスキルアップへの道だと強く感じた。今後も類似イベントがあれば積極的に参加し、お世辞にも良いとは言えない自分の英語プレゼンテーションスキルを地道にアップさせていきたい。今回の参加は、それを気づかせてくれる素晴らしい機会となった。

第7回教育フォーラム in 九州産業大学

テーマ ICT教育の魅力～ICT教育の実践事例から～

開催日 2016年7月2日(土)

主催 九州産業大学

政策学部 関根千佳 教授

7月に九州産業大で開催されたICT教育に関するフォーラムに参加した。諸外国ではICTをツールに活用した教育は非常に進んでおり、そのことが学生のアクティブ・ラーニングや、障害のある学生への「教育のユニバーサルデザイン」に大きく貢献している。だが日本では一部の熱心な教員によって推進されている印象である。同志社においても、クリッカーなどのツールの導入は、女子大の一部にとどまっている。今後、障害のある学生や遠隔地に住む社会人学生が増えることも予想されるため、他大学や先進的な高校の新たな取り組みを知っておく必要性を感じていた。

小樽商科大や九州産業大の発表では、授業におけるクリッカーや動画資料などのICT活用事例が紹介された。これらのツールは学生の能動的な参加意欲を高め、大教室でもアクティブ・ラーニングが可能となることがわかった。機器やソフトの拡充など課題もあるが、学生の反応をリアルタイムに把握できることや、大教室でも学生の質問を受けながら、ダイナミックに議論を展開したり内容を深めたりできる授業は、大変刺激的であった。

また隠岐国学習センターは、島留学によって全国からレベルの高い高校生が集まり、現在は国内外をネットで結んで質の高い教育を展開している。学びの場が、地域活性化の核となっている。ICT教育が起すイノベーションの可能性を再認識した。

ニコニコ動画が運営するN高等学校は、設立前から関心を持っており、開校3か月後の状況を知りたいと思っていた。1500名近い入学者は、オンライン環境でのリアルタイム授業で、学力も意欲も伸びているようだ。目的である「尖った学生」を何人輩出できるのか、今後が楽しみである。

今回、先進的な日本の大学や高校の事例を拝見したが、同志社としても、世界の最先端の技術や教育の動向を把握し、取り入れていく必要性を感じた。文系学部においても、教員に対する技術普及の機会が増えることを期待している。

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務局までお知らせください(本学専任教職員を対象とします)。

今後、学外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
11月 5日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	関西大学 梅田キャンパス
12月 10日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	福岡大学
12月 3日(土)・4日(日)	大学教育学会 課題研究集会	千葉大学 西千葉キャンパス
3月 4日(土)・5日(日)	大学コンソーシアム京都 第22回FDフォーラム	京都コンサートホール大ホール 京都三大学教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」(京都府立大学内)
3月 11日(土)・12日(日)	大学評価学会 第14回全国大会	名古屋大学
3月 19日(日)・20日(月)	第23回大学教育研究フォーラム	京都大学 吉田キャンパス

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。

※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

BOOKS 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>



大学のFD Q & A

佐藤浩章 中井俊樹 小島佐恵子
城間祥子 杉谷祐美子(編)
玉川大学出版部
2016. 6
ISBN : 978-4-4724-0520-4



大学のIR

- 意思決定支援のための情報収集と分析 -

小林雅之 山田礼子(編著)
慶應義塾大学出版会
2016. 4
ISBN : 978-4-7664-2279-5



アクティブラーニングの技法・授業デザイン

安永悟 関田一彦 水野正朗(編)
溝上慎一(監修)
東信堂
2016. 3
ISBN : 978-4-7989-1345-2



授業に生かすマインドマップ

- アクティブラーニングを深めるパワフルツール -

関田一彦 山崎めぐみ 上田誠司(著)
ナカニシヤ出版
2016. 1
ISBN : 978-4-7795-1018-2

*センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。

また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

2016年度『大学入学準備講座』のご案内

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに、大学で要求される学習の質と量を知ってもらい、正しい学部選択の機会を与えることを目的として、「大学入学準備講座」を開講しています。

この講座では、秋学期の土曜日の午後、各学部・学科の教員が、それぞれの専門分野で扱う学問の内容から面白そうなテーマを選んで、実際の大学での講義と同じ形式で、高校生に授業を行います。

今後開講分の講座については受講申込みを受けていますので、詳細は以下の URL よりご参照ください。

大学入学準備講座のページ

http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

	13時10分～14時40分	14時55分～16時25分
9月24日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座①】 生命現象のダイナミクス：リズムは同期する？ 生命医科学部医工学科 剣持 貴弘 教授	【講座②】 2020東京オリンピック・パラリンピックの レガシーを考えるー国民幸福度の向上ー スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授
10月8日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座③】 第二外国語学習をめぐって グローバル・コミュニケーション学部 中西 裕樹 准教授	【講座④】 ルネサンスの知、知のルネサンス グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授
10月22日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑤】 脳の中に、時計をさがしに 心理学部 畑 敏道 教授	【講座⑥】 経済学的な政策の考え方 政策学部 川上 敏和 教授
10月29日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑦】 経済学を学ぶことで見えてくるもの 経済学部 大野 隆 教授	【講座⑧】 流行をつくるメカニズム 商学部 内野 雅之 准教授
11月5日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑨】 宗教改革のカラクリを知る 神学部 中野 泰治 准教授	【講座⑩】 若者は政治を変えられるのか：理論とデータ 法学部政治学科 飯田 健 准教授
11月12日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座⑪】 データサイエンスのすすめ 文化情報学部 金 明哲 教授	【講座⑫】 賢い人工物ー賢さとは何だろうー 理工学部インテリジェント情報工学科 三木 光範 教授
11月19日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑬】 ベルシア戦争の記憶 文学部文化史学科 中井 義明 教授	【講座⑭】 国際社会学への誘い 社会学部社会学科 板垣 竜太 教授

Column 大学教育の今 「3つのポリシーの再策定」

2016年3月31日高大接続システム改革会議の最終報告が公表されました。そこでは、大学教育改革として、3つの方針(ポリシー)(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の策定に関する位置付けの強化、認証評価制度の改革が謳われています。大学教育においては、卒業生が、「国内外の新しい社会で主体的に多様な人々と協力して生活をし、仕事をしていくことができるよう、個々の学生の主体性を更に引き出す多様な学びの場を創り、十分な能動的学修とそれを支える広く深い知識・技能を獲得できるようにする必要があり、そのために、まず3つの方針の一体的策定が求められています。

本学ではすでに各学部・研究科において3つの方針の策定がなされていますが、今年度、学校教育法によって高校までの教育に求められている学力の3要素(①十分な知識・技能、②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度ー学校教育法30条2項、49条、62条、70条)を参照しつつ、3つの方針の見直しをしていただくよう各学部・研究科等へお願いした次第です。3つの方針の見直し作業の後には、本学の教育の質の向上と質の保証に向けた更なる取組みを具体的に推進していくことが求められます。

学習支援・教育開発センター所長 大島 佳代子



「シーエルエフ レポート Vol.25」

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2016年10月15日

Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025

発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館1F <http://clf.doshisha.ac.jp/>